

# 常磐タイムス

発行日 毎月十日 二十五日  
 定 價 一 部 金 十 銭  
 發行兼編 高 橋 竹 四 郎  
 輯印刷人 高 橋 竹 四 郎  
 發行所 福島縣平町御治町二五  
 常磐タイムス社

## 復黨問題と新政策の樹立

### 立憲民政黨前參與官

比 佐 昌 平 氏 談

今回多年志を同じしたるに於て衆議院に絶對多數を方面に移住せしめ以て生有志より選任して移住者と我黨代議士數名が黨籍を離れ其支持に依り所謂政黨活の安定を得せしむべく極同行せしめ萬遺憾なき方法るゝに立至つたことは誠に内閣を組織し乍閣臣の一分力之れが實現に奔走中とのを取る由である

遺憾に堪へぬ、御承知とは意見を異にしたるか爲めに事であるが時節柄最も社會に對するが大體其事情申上り總辭職の已むなきに至り國の注目を引き此の美舉に對し各戸の無職婦人に強成的に力を入る由である

## 社會から見た

### 丸本家具店

#### 對藤彦カフェー問題

過般同人社警城之民聲が完附なき迄に兩者の間に於ても商營者として頗る采當各自衛のため一大センセーを欠くことないとして民聲シモンを捲起した即ちその紙記載の問題を惹起したの概要は藤彦カフェーが家具である、而して世人は何ん(請負額金八百五十圓也)と見る?

去の本月廿六日泉村泉神懐ふ赤誠は勿論ながら亦克社境内に舊藩主本田忠彦侯其の心意を体して寢食の彰徳碑建設除幕式を執念加工したる馬目氏の努行されたが其の建碑石材の力を表賞し慮勞として記念堂々たる併せし技工の優品及び金一封を贈り之に賞讃する處であつた、而して泉舊藩士有志の主を

## 馬目石材店の名譽

湯 本 町

引續く不況による痛事とし用し盡してしまひ困憊の極て各炭礦が止むを得ず人員致に苦呻しつゝある者多々陶汰の擧に出ることによつあることを尤も遺憾なる事て若干の手當金を支給され柄であるとなし過般石川町拂による買買誓約を標規と金として十分の一になつた忝なる点とは一般參集者の報ゆる處あつた、

去の本月廿六日泉村泉神懐ふ赤誠は勿論ながら亦克社境内に舊藩主本田忠彦侯其の心意を体して寢食の彰徳碑建設除幕式を執念加工したる馬目氏の努行されたが其の建碑石材の力を表賞し慮勞として記念堂々たる併せし技工の優品及び金一封を贈り之に賞讃する處であつた、而して泉舊藩士有志の主を

して認識に苦むのみならずとするか大体から見し丸は半面當然のこととして生活をんは有産家であり何にも藤脅かざるものであると言張彦の不拂によつて店の進退つた結果遂に忌まじき問題に大影響あるものでなきにを惹起するに至つたが数日反し藤彦は女子供のみの淋前、町議高橋龜松、伊藤一しき營業なるにも不拘今日の兩氏の仲介に依つて和解の生計を苦しめる迄のやりを見る事になつたが果して過ぎた、涙なき方法を取つ世評の多くは丸はんに不利な事に於て一般からの同情であることは遺憾とすべきは藤彦に傾いて居ることはであらう、

## 繭價五圓臺

### 製絲家活況を呈す

今回大阪より出張所を設け難になやんでゐた製絲家もたる平町仲町郡製絲株式是れで愈々活氣の活動に入會社平購繭所にては早くもものと見られてゐる。地方民の福利を計に出張所縣下秋蠶出廻りは一口三十主任として澤渡村の加藤喜萬貫餘て此の内購繭を要す八氏並に加藤一郎の兩氏等べき見込みのもの三十萬圓の努力により益々同會社發にある

展の爲めに資金は本社より而して地方蠶絲業家の將來數百萬圓の融通なす事決定に於ける唯一なる力と頼むし乾繭を擔保として蠶絲家べき會社として尤も好評噴に融通する事になつた資金々たるものがある。

## 金成通氏

政友會縣南の 一柱にして 最も徳望ある 金成通氏は福島縣下に於ける茨城縣出身の第一成功者として且つては縣人會長たりし人常に徳望家として大衆から敬仰されてゐるが同氏の本縣下に於ける産業其他裨益となるべき事業にはの好題目だ比佐鈴木辰代議士奮闘を謝す



政友會縣南の 一柱にして 最も徳望ある 金成通氏は福島縣下に於ける茨城縣出身の第一成功者として且つては縣人會長たりし人常に徳望家として大衆から敬仰されてゐるが同氏の本縣下に於ける産業其他裨益となるべき事業にはの好題目だ比佐鈴木辰代議士奮闘を謝す

くまで反對を持続せよ 政黨員の醜い功名を露骨に晒け出して運動した四倉漁は誰の功名でも良い地方民の福利増進萬々歳